

ずいそう

息子との旅行日記

橋本美春



現場もひと段落した今年の夏、中学校3年生の息子と2人で、広島県呉市に2泊3日の旅行に行きました。2人きりの旅行はなんと10年振りです。「お母さんと2人でもいいよ」と言ってくれた嬉しさと、話があうのかという不安で始まった旅行でした。

まず最初に訪れたのが、大和ミュージアムです。「戦艦大和」に関しての知識が全くない私でしたが、とても見応えがありました。70年前に、大和を始め多くの戦艦を造った知恵と技術があった事に驚きました。しかし、戦争という現実があった事に悲しくなりました。一番衝撃を受けたのが、特攻攻撃隊の「人間魚雷回天」でした。1度出撃すると攻撃の成否に拘らず乗員の命のない兵器です。乗員の気持ちはどんなものだったのか想像も出来ない恐怖を覚えました。

気持ちを切り替えて、次に訪れたのは、てつのかくじら館です。実際に使用されていた潜水艦の中を見学できました。潜水艦の中は狭く、不便な感じを受けました。1度潜水すると海の中では曜日の感覚がなくなるので、金曜日にカレーが出るようになったということを知りました。

さて、1日目に予定していた所を見終えてホテルに到着し、楽しみにしていた夕食です。

息子が調べていたのですが、呉は肉じゃがの発祥の地らしく、あの東郷平八郎が考案したそうです。ホテルから歩いて5分程のところに美味しい食堂があったので、行くことにしました。肉じゃがとカレーライスとカツ丼を注文しました。肉じゃがは味がしっかりついていてお肉と絶妙にマッチしていて美味しかったです。カレーライスは昔懐かしい感じでした。一番びっくりしたのはカツ丼でした。カツ丼の上にデミグラスソースがかかっている、カツは牛カツでした。ビールと一緒に美味しく頂きました。

2日目の朝、どうしても行きたい所がありました。ホテルから少し遠かったのですが、日頃の運動不足の解消にと、歩いていくことにしました。そこは朝早くから開いている「メロンパン」というお店で、その名のおりメロンパンの有名なお店です。想像していたより持ったらずっしり重くてびっくりしました。今日のお昼ご飯にとあんぱんも購入しました。

2日目は、呉湾のクルーズで始まりです。実は息子と私2人とも、船は大の苦手だったのですが、せっかく来たのだからと2人勇気を出すことにしました。それが正解でした。呉には自衛隊の基地があるということで、護衛艦や潜水艦が多く停泊していて、それを間近で観ることが出来たので、迫力満点でした。少し遠くだったのですが、訓練している潜水艦も観ることが出来て、貴重な体験でした。

次に訪れたのは、入船山記念館です。旧呉鎮守府司令官官舎で国の重要文化財だそうで、屋根が天然のスレートで魚の鱗のように見えました。執務室は金唐革紙が貼られ、豪華で重厚感がありました。

昼食は、朝購入したメロンパンです。入船山記念館の近くの藤の木の下で食べました。藤の季節ではないのが少し残念でしたが。

2日目の最後は、旧呉海軍墓地（長迫公園）に行きました。私はもう暑くてバテ気味だったのですが、息子は元気なもので、パンフレットを見ながら墓碑を観ていました。多くの墓碑を1つ1つ眺めて何かを感じているのか不思議な感じがしました。

3日目の最終日、現役海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」の見学からの始まりです。前日に船上から見たのですが、やはり近くから見るとかなりの大きさがあり、圧倒されました。それでも「戦艦大和」より100m程小さいらしく、昔の日本の技術はすばらしかったのだと改めて実感しました。



こうして、息子との2泊3日の旅行は終わりましたが、いろいろと考えさせられる旅行となりました。今年折しも戦後70年という年でもあり、テレビ番組でも特集が組まれ、息子と観る機会が多く、もしこの様な戦争の時代に生まれていたらと考えると、やるせない気持ちになりました。息子ほどの若い年齢の子供達が何も言えず命を落とさなくてはならなかった戦争

を、2度と起こしてはならないということを改めて痛感しました。

最後に、旅行に一緒に行ってくれた息子に「今度は、横須賀か佐世保に行きたいな。もちろんお母さんと」と言ってもらえて、頬が緩むばかりです。

—はしもと みはる (株)大竹組 工事主任—

